

加賀検定

第11回 加賀ふるさと検定試験問題

初級 (全60問)

2023年12月17日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 昭和 30 年頃までは、和服は、下着は別として、普段は洗濯を殆んど行わず、陰干しや () をした。
- ① 洗い張り ② つけ置き ③ 虫干し ④ 風あて
- 2 蚊などの虫さされから身を守るために、寝る前におこなった () 吊り作業は、昭和
中頃までは日本の風物詩となっていた。
- ① 蚊帳 ② 線香 ③ わら ④ 虫
- 3 戦中戦後の食料不足の時代には、芋雑炊や麦めし、() めしを主食にしたこともあり、白いご飯を十分に食べるができなかった。
- ① 豆 ② きび ③ 菜 ④ 大根
- 4 加賀市の「はよ、しねま」と言う方言の、「はよ」は早く、「しねま」は () という
意味ですが、この「しねま」は「死ね」と同義にとられ勘違いされることもあった。
- ① ～しなさい ② ～するな ③ ～してしまった ④ ～したことがある
- 5 加賀江沼の人々が、古来より親しんできた「江沼三山」とは、富士写ヶ岳、大日山、
() の3つの山をいう。
- ① 錦城山 ② 鞍掛山 ③ 畑山 ④ 観音山
- 6 加賀市は石川県の最西南端に位置し、周囲 98.5 km、面積は約 () km²である。
- ① 206 ② 306 ③ 406 ④ 506
- 7 動橋川の上流、鞍掛山のふもとの山中温泉荒谷町には、石川三名瀑の1つである ()
がある。
- ① 鶴ヶ滝 ② 千束ヶ滝 ③ 女郎ヶ滝 ④ 姥ヶ滝

8 大聖寺川は、古来よりたびたび氾濫はんらんを起こしてきたが、昭和40年には、我谷ダムわがたに、平成18年には（ ）ダムが完成し、近年、水害にあらうことはほとんどなくなった。

- ① 西谷にしたに ② 菅谷すがたに ③ 風谷かぜたに ④ 九谷くたに

9 山中温泉大土町おおづちや富士写ヶ岳いきより南側は（ ）クラス域に属し、春には葉を開き、秋には紅葉、落葉する木で覆われる。

- ① シャクナゲ ② ブナ ③ トチノキ ④ ヤブツバキ

10 塩屋海岸しおやから片野海岸かたのにかけては、（ ）などのような、保存状態さきゅうしょくせいのよい砂丘植生が見られる。

- ① オオバコ ② セイタカアワダチソウ ③ ハマヒルガオ ④ タンホポ

11 錦城山の北西斜面には、（ ）が巣を作り繁殖はんしょくするコロニーがある。

- ① キジバト ② スズメ ③ コウノトリ ④ アオサギ

12 江戸後期、（ ）は古九谷こくたにの再興さいこうを決意し、九谷村かまに窯を開いた。

- ① 塚谷竹軒つかたにちっけん ② 永楽和全えいらくわぜん ③ 吉田屋伝右衛門よしだやでん えもん ④ 飯田屋八郎右衛門いいだやはちろう えもん

13 大聖寺地区会館前には、政治家、教育者であり、郷土しょうとの殖産興業しよくさんこうぎょうに貢献した（ ）の石像が建っている。

- ① 梅田五月うめださつき ② 竹田儀一たけだぎいち ③ 木村素衛きむらもとのり ④ 広田亥一郎ひろた いちろう

14 瀬越村せごえの北前船主（ ）は、明治初年、和船わせんを洋帆船ようはんせんに切り替え大きな利益をあげ、日本を代表する北前船主となった。

- ① 久保彦兵衛くぼひこべえ ② 西野小右衛門にしのごうえもん ③ 廣海二三郎ひろうみにさぶろう ④ 西出孫左衛門にしでまござえもん

15 前田利明としあきの四男で大聖寺新田藩主しんでんとなった（ ）は、將軍徳川綱吉つなよし ほうえの法会ほっかいのおりに接待役せったいとなったが、同役の織田秀親ひでちかを刺殺した。

- ① 前田利昌としまさ ② 前田利鬯としか ③ 前田利之としこれ ④ 前田利治としはる

16 現在、加賀市では、縄文じょうもん・弥生やよい・古墳こふん時代の埋蔵文化財まいぞうぶんかざいが、約（ ）ヶ所確認されており、県内有数の遺跡いせきの密集地みつしゅうちとなっている。

- ① 185 ② 350 ③ 550 ④ 850

17 () からは、県内最古の人骨をはじめ、無数の貝類や土器片約 200 点などが発見されたが、土器は関西の影響を受けている北白川式土器きたしらかわしき ど きと考えられている。

- ① 橋立大野山遺跡はしたておおのやまいせき ② 柴山水底貝塚しばやますいていかいづか ③ 藤の木遺跡ふじ き いせき ④ 片山津玉造遺跡かたやまづたまつくりいせき

18 東谷口地区の横北遺跡よこぎたいせきからは、県内でも珍しい () の注口土器ちゅうこうや呪術用具じゅじゆつとも考えられる異形土製品いぎようが出土している。

- ① 丸形 ② 三角形 ③ 四角形 ④ 菱形ひしがた

19 () 遺跡は「北陸の登呂遺跡とろいせき」と呼ばれており、出土した土器の形から、山陰文化さんいん圏との結びつきが極めて強いことが分かった。

- ① 猫橋ねこばし ② 柴山出村しばやまでむら ③ 藤の木 ④ 横北

20 律令体制下の古代官道には、30 里 (現在の約 16 km) ごとに駅えきが設けられ、北陸道ほくろくどうが通る江沼郡には () と潮津駅うしおづえきの 2 駅が置かれ、それぞれ駅馬 5 匹えきばが常備じょうびされていた。

- ① 牛ノ谷駅うしのやえき ② 朝倉駅あさくらえき ③ 大聖寺駅だいしょうじえき ④ 動橋駅いぶりはしえき

21 平安末期の白山信仰の本地仏ほんちぶつとして貴重な山代温泉薬王院安置きちよう やくおういんあんち もくどうの木造 () は、明治維新めいじ いしんまで大聖寺慈光院じこういん ほんぞんの本尊であった。

- ① 阿弥陀如来像あみだにょらいぞう ② 不動明王像ふどうみょうおうぞう ③ 大日如来像だいにちにょらいぞう ④ 十一面観音像じゅういちめんかんのんぞう

22 寿永 2 年 (1183) 篠原での源平合戦の際に、平家の武将斎藤実盛さいとうさねもりが白髪はくはつを染めるときに使用した鏡かがみを投げ入れたと伝える「鏡の池かがみ いけ」は、現在の () にある。

- ① 野田町のだまち ② 深田町ふかたまち ③ 黒崎町くろさきまち ④ 小塩辻町おしおつじまち

23 鎌倉時代、北野社領きたのしゃりょう () の地頭じとうとして土着した狩野氏どちやくは、荘内の総鎮守そうちんじゆである菅生社の領有権すごうも入手するようになり、江沼郡でも最も有力な国人 (土豪) にまで成長した。

- ① 福田荘ふくだのしょう ② 山代荘やましろのしょう ③ 富墓荘とみつかのしょう ④ 額田荘ぬかだのしょう

24 鎌倉新仏教のうち、最初に江沼の地に進出したのは一遍智真いっぺんちしんが開いた () だったが、実際に加賀の地を遊行ゆぎようしたのは 2 世真教しんきようが最初である。

- ① 浄土宗じょうどしゅう ② 時宗じしゅう ③ 天台宗てんだいしゅう ④ 日蓮宗にちれんしゅう

25 蓮如れんにょの次男蓮乗れんじょうの河北郡二俣本泉寺ふたまたほんせんじ、3男蓮綱れんこうの能美郡波佐谷松岡寺はさだにしょうこうじ、4男蓮誓れんせいの江沼郡山田とうせい（ ）の三ヶ寺によって、加賀の一向一揆が統制された。

- ① 光教寺こうきょうじ ② 瑞泉寺ずいせんじ ③ 光琳寺こうりんじ ④ 光徳寺こうとくじ

26 平安後期、11世紀後半に悉曇学しつたんがく（梵語ぼんご）を究め、『悉曇大底』しつたんたいてい『梵字形音義』ぼんじけいおんぎな多数の著書を残した僧（ ）は、白山五院のうちの温泉寺に居住していた。

- ① 浄厳じょうげん ② 仙覚せんかく ③ 明覚みょうかく ④ 安然あんねん

27 建武政権が崩壊し、反尊氏派たかうじはの新田義貞にったよしさだと結んだ畑時能はたときよしが狩野一党かのを味方に入れ、越前の細呂木ほそろぎに堡塁ほるいを構えて「（ ）ノ城」たてこに楯籠もる尊氏方つばきよふみの津葉清文を攻め落とすとした。

- ① 大聖寺だいしょうじ ② 金津かなづ ③ 吉崎よしざき ④ 牛ノ谷うしのや

28 吉崎村よしざきの肝煎役きもいりやく鹿野小四郎かのこしろうは、（ ）とむらやくに移住し、この地で約15年間十村役を勤め、その後、農業の知識を子孫に伝えるために『農事遺書』のうじいしょをまとめた。

- ① 野田村のだむら ② 右村みぎむら ③ 片山津村かたやまづむら ④ 小塩辻村おしおつじむら

29 元禄2年（1689）山中温泉まつおぼしょうを訪れた松尾芭蕉くめのすけは（ ）に宿泊し、主人久米之助に俳句の手解きてほどをし、自号「桃青」とうせいの一字を取り「桃妖」とうようの俳号を与えた。

- ① 俵屋たわらや ② 吉野屋よしのや ③ 角屋かどや ④ 泉屋いずみや

30 大聖寺藩医やまもとほくざんの家に生まれた（ ）たきけいざんは儒学を志し、江戸で山本北山きたのしょうや多紀桂山ほりひではるなどから学問を学び、日本の考証学こうしょうがくを大成させて『九経談』きゅうけいだんを表した。

- ① 榎田順格かしだじゅんかく ② 竹内玄同たけうちげんどう ③ 草鹿玄泰くさかげんたい ④ 大田錦城おおたきんじょう

31 大聖寺城主溝口秀勝みぞぐちひでかつは、慶長3年（1598）4月に越前北庄城主堀秀治きたのしょうが越後国（新潟県）の春日山かすがやまに移されたことをきっかけに、同国の（ ）に移された。

- ① 糸魚川いといがわ ② 村上むらかみ ③ 新発田しばた ④ 高田たかだ

32 大聖寺藩前田家の菩提寺ぼだいじである（ ）れきだいはんしゅには歴代藩主の位牌いはいが祀られ、また、その裏山まつには、初代から14代までの歴代藩主の墓たが建っている。

- ① 本光寺ほんこうじ ② 実性院じっしょういん ③ 慶徳寺きょうとくじ ④ 全昌寺ぜんしょうじ

33 大聖寺藩主^{まえだとしあき} 2代前田利明^{かんぶん}は、寛文年中（1661～72）に山城・近江^{やましろ おうみりょうこく}両国から茶の実^{こうにゅう}を購入して領内^{りょうない}の村々に配分^{はいぶん}した。その後江戸後期には（ ）が最大の茶生産地になった。

- ①山代村^{やましろむら} ②保賀村^{ほうがむら} ③打越村^{うちこしむら} ④串村^{くしむら}

34 大聖寺藩主の在位期間^{ざいいきかん}が42年と最も長い5代藩主（ ）は、宝暦年間^{ほうれき}に幕府^{さんしゅう}から三州（愛知県）^{よしだばし かけかえ}吉田橋の掛替工事を命じられ、藩財政^{はんざいせい ひっばく}を逼迫させた。

- ①前田利治^{としはる} ②前田利鬯^{としか} ③前田利道^{としみち} ④前田利家^{としいえ}

35 大聖寺城下町の町行政^{かんせい}は、寛政7年（1795）からは、藩側役人の町奉行^{はんがわやくにん まちぶぎょう}らが町側役人の（ ）^{まちがわやくにん}に同席して町年寄^{まちどしより}・町肝煎^{まちきもいり}らとともに事務を行った。

- ①町役所^{まちやくしょ} ②町役場^{まちやくば} ③町会所^{まちかいしょ} ④区会所^{くかいしょ}

36 大聖寺藩では、加賀藩と同様に専売制^{せんばいせい}の「塩手米制」^{しおてまいせい}により塩を生産したが、江戸後期には（ ）^{しのはらしん はまさび}・篠原新・浜佐美の3か村のみの生産となった。

- ①塩屋^{しおや} ②篠原^{しのはら} ③片野^{かたの} ④伊切^{いきり}

37 大聖寺藩は城を築くことが認められず、現在の（ ）^{きず}が建っている場所あたりに藩邸屋敷^{はんていやしき}を建てた。

- ①錦城小学校 ②大聖寺地区会館 ③加賀聖城高校 ④かが交流プラザさくら

38 加賀藩主3代前田利常^{としつね}の夫人（ ）^{げんな}は、元和5年（1619）に婚礼調度品^{こんれいちょうどひん}の一つと伝えられている「蒔絵角赤手筥」^{まきえすみあかてぼこ}（漆芸品）^{しつげいひん}を敷地の菅生石部神社^{しきじ すごういそべじんじゃ}に寄進^{きしん}した。

- ①芳春院^{ほうしゅんいん} ②玉泉院^{ぎよくせんいん} ③光現院^{こうげんいん} ④天徳院^{てんとくいん}

39 大聖寺岡町には、万治3年（1660）4月21日に江戸で死去した大聖寺藩祖前田利治^{おかまち まんじ}の遺骸^{はんそ としはる いがい}を茶毘^{だび}に付し、菩提寺^{ぼだいじ}が建立されるまで遺骨^{かりあんち}を仮安置したという（ ）がある。

- ①経塚^{きょうづか} ②灰塚^{はいづか} ③首塚^{くびづか} ④四墓^{よつはか}

40 大聖寺関所の柵門^{せきしょ さくもん}は、明治2年（1869）に関所が廃止されたとき、家老生駒一彦^{はいし}の口利き^{かろういこまかずひこ くちき}で（ ）の境内^{けいだい}に移され、瓦葺^{かわらぶき}の屋根がつけられた。

- ①全昌寺^{ぜんしょうじ} ②宗寿寺^{そうじゅじ} ③実性院^{じつしょういん} ④久法寺^{きゅうほうじ}

41 都もどり地蔵は、平安末期の歌人西行法師と弟子の西住が諸国行脚の途中、都へ帰る西行と西住が別れた場所である（ ）に安置されたものと伝えられる。

- ①三日市 ②七日市 ③八日市 ④十日市

42 加賀市（ ）町の白山神社には、北前船の船主や船頭らが航海の安全祈願や無事帰郷したことを神に感謝して奉納した53面の船絵馬がある。

- ①吉崎 ②塩屋 ③瀬越 ④橋立

43 大聖寺城が置かれた錦城山は、「一国一城令」が発令された元和元年（1615）から明治期まで（ ）と呼ばれていた。

- ①御城山 ②城跡山 ③御禁山 ④廢城山

44 明治2年7月に発足した「大聖寺県」は、その年の11月に（ ）と合併し、僅か4ヶ月間で消滅した。

- ①金沢県 ②小松県 ③石川県 ④美川県

45 大聖寺藩士（ ）は、明治2年、琵琶湖の大津と海津間64kmを結ぶ川蒸気船一番丸を就航させた。

- ①石川 嶂 ②東方芝山 ③飛鳥井清 ④市橋波江

46 大正4年、書や篆刻、陶芸、料理などで異彩を放った総合芸術家、北大路魯山人は、山代温泉に逗留し、九谷焼を（ ）から習った。

- ①須田菁華 ②上出喜山 ③大蔵寿楽 ④木崎万亀

47 明治11年、明治天皇が巡幸のために大聖寺に来られた際、（ ）に行在所が置かれ、ここで休憩された。

- ①長流亭 ②願成寺 ③錦城小学校 ④郡役所

48 大聖寺博覧会は、（ ）の4月から5月にかけて錦城小学校と遷明中学校の2ヶ所を会場に盛大に開催された。

- ①明治12年 ②大正2年 ③昭和2年 ④昭和12年

49 太平洋戦争で犠牲ぎせいとなった石川県関係の戦没者せんぼつしゃは2万2788人で、このうち江沼郡出身の戦没者は（ ）人であった。

- ① 135 ② 1,536 ③ 5,136 ④ 8,236

50 当地出身の政治家で、これまでに大臣となった人は、厚生大臣を務めた竹田儀一たけだぎいちと農林大臣のうりんを務めた（ ）の2人だけである。

- ① 坂田英一さかたえいいち ② 岩原謙三いわはらけんぞう ③ 梅田五月うめださつき ④ 瓜生外吉うりゅうそときち

51 当市の基幹産業である機械製造業は、明治36年に、山中温泉の新家熊吉あらいあくまきちが自転車部品のリムを製造する（ ）が設立されたことがきっかけとなった。

- ① 大同工業だいどうこうぎょう ② 新家商会あらかしやうかい ③ 江沼チェーンえぬま ④ 月星製作所つきぼしせいさくしょ

52 JA加賀では、平成22年から、特産の（ ）を原料とした焼酎しょうちゆうを商品化させ販売している。

- ① ジャガイモ ② カボチャ ③ サツマイモ ④ ブロッコリー

53 山中温泉では、平成15年、宿泊客などが、温泉情緒じゆうぢゆうを感じながら街並みを散策することができるよう（ ）街道を整備した。

- ① ゆげ ② 菊の湯 ③ 芭蕉ばしやう ④ 湯けむり

54 加賀市出身のプロ野球（ ）所属の山崎颯一郎やまざきそういちろう投手は、同じく加賀市をルーツとしている新家工業株式会社あらかこうぎょうとCM契約を結んでいる。

- ① 阪神タイガース ② 北海道日本ハムファイターズ ③ オリックスバファローズ
④ ソフトバンクホークス

55 加賀市は、令和4年3月に北陸で初めてとなる国家戦略特区の認定を受け、従来の加賀市（ ）センターかくちやうを拡張して、令和5年6月にグランドオープンした。

- ① スマートシティ ② 行政サービス ③ イノベーション ④ 医療

専門テーマ「古墳」 5問

56 加賀市（ ）町の丸山古墳まるやまこふんは、直径70m近くの規模きぼであるが、もしも前方後円墳ぜんぽうこうえんふんならば、全長120m以上となり、手取川てとりがわ以南では最大級の古墳となる。

- ① 栄谷さかえだに ② 南郷なんごう ③ 富塚とみつか ④ 勅使ちやくし

57 南郷町なんごうから吸坂町すいさか、上河崎町かみかわさきにかけての丘陵地きゅうりょうちには、約85基の古墳が密集みっしゅうしており、このうち、吸坂丸山古墳きすいさかまるやまこふんからは県内でも珍しい（ ）の形をした土器が出土している。

- ① 猿さる ② 鶏にわとり ③ 猪いのしし ④ 兎うさぎ

58 昭和7年に、（ ）町地内はこがたで、箱型の石棺せっかんが発見された。調査の結果、5世紀中頃の前方後円墳だと判明した。これが、現在、国指定史跡となっている狐山古墳きつねやまこふんである。

- ① 栄谷 ② 横北よこきた ③ 塔尾たのお ④ 二子塚ふたごつか

59 勅使町ちやくしの法皇山横穴群ほうおうざんよこあなぐんには、現在までに（ ）基あまりの横穴が確認されておりこれらの横穴は詳しく調べると、200基以上はありと考えられている。

- ① 50 ② 80 ③ 120 ④ 150

60 （ ）古墳群からは、当地方では最も古い鏡きょうとされる「鋸齒文縁方格規矩四神鏡きよしもんえんほうかくきくしんきょう」と称する中国製の銅鏡どうきょうが発見されている。

- ① 吸坂すいさか ② 黒瀬くろせ ③ 河田山かわだやま ④ 分校前山ぶんぎょうまえやま